【学びの機会・対話の場の取り組み事例一覧】

<学びの機会>

章節	取り組み名 ※具体的な内容	担当課	学びの機会	主に理解を深めていただきたいこと	参加対象者	参加者の集め方(3つ)	参加していただく為又は理解していただく為の工夫(3つ)	実績 ※資料が無い場合はおおよそで結構です		参加者満足度 ※担当者所感	次回に向けての改善点 ※担当者意見
								回数	場所		
5-1	学校規模適正化経費 ※少子化等の影響により、小中学校規模に差が生じ、教育環境に影響が出てきているため、学校規模の適正化に向けた説明会	学務課	地域説明会	適正な学校規模による社会性の育成など、子どもたちの教育環境の充実	適正化の対象校区住民	・町内自治会の回覧 ・自治協議会での周知	・対象校のPTA会長、自治協会長への事前説明 ・開催日時を各種団体長と協議を行った ・簡潔に説明を行い、質疑応答の時間を確保した	回数 8回	場所 西部公民館等	概ね満足	保護者や地域住民の意見は多く聞くことはできたが、就学前児童の保護者の意見が少なかったため聞く場を設けたい
5-2	総合型地域スポーツクラブ推進事業 ※地域スポーツ活動を担うクラブや団体・個人への情報提供並びに、互いの情報交換・共有による、事業母体の強化と個々の資質の育成を図る為のシンポジウム	スポーツ振興課	シンポジウム	・総合型スポーツクラブの事業運営とプログラム作成が、どうしたら上手く機能していくかや、クラブ内の協働体制作り(クラブ運営母体の足腰の強化) ・個々の指導力や、資質の向上を図るために必要なこと	総合型地域スポーツクラブ 校区体育協会 スポーツリーダー等	・参加対象団体へのダイレクト通知 ・定期開催(月1回)するクラブ代表者調整会において周知 ・関連団体の社会体育振興事業団等への参加・協力を要請	・傷害とケガの未然防止について、整形外科医の講演を2回実施するなど、参加者のニーズが高い内容とした ・研修会のダイレクト通知の中で、事前に研修内容のポイントと重要性を紹介し、参加者への意識づくりと啓発を行った ・関連団体との連携を深めるため、事業団からの参加人員増の要請をし、支援を依頼した	回数 4回	場所 本庁14F大ホール 駐輪場8F会議室 市総体青年会館ホール	概ね満足	・事業運営が上手く機能しているクラブの実態と施策を情報共有する内容の企画 ・県外から、広い情報を持った講師等を招聘 ・全国スポーツ会議等に参加した代表者の全体報告会を企画
5-3	池辺寺跡発掘調査経費 ※貴重な文化遺産である国指定史跡池辺寺跡の理解を深めてもらうための現地見学会	文化振興課	現地見学会	貴重な文化遺産である国指定史跡池辺寺跡の遺構や遺物を直接見たり、解説を聞くことによって、そのあり方や歴史的背景・価値について理解を深めてもらう	全市民	・広報課への報道投げ込みによる報道での周知 ・近隣自治会・住民への案内 ・埋蔵文化財調査室開催講座での案内	・専門職員によるわかりやすい解説に努めた ・パネルや写真等を多用した解説に努めた ・出土遺物を直接見て触ってもらえるようにした	回数 14回 ※H20年度以降通算	場所 国指定史跡池辺寺跡	概ね満足	・年齢層がどうしても偏ってしまうため、若い人たちに参加を促すように、近隣の小・中学校や市内の高校・大学等にも案内を行うよう検討する ・現地へのアクセスがやや難しいため、地図や駐車場の案内を充実させる
7-3	活気あふれる元気な農村地域創造事業 ※「地産地消の拠点」農とぴあ事業の目的や事業内容についての地域説明	農業政策課	地域説明会	農とぴあ事業では、地域の農業者や農業団体等が運営主体となって、事業を進めていくことの必要性	農とぴあ地域に指定された地域住民	・地域の代表者等を通じて関係者に周知	・地域の要望に合わせて夜間に開催(主な参加者は農業者) ・地域公民館にて開催	回数 2回	場所 地域公民館	概ね満足	地域の複数の関係者を通じて参集を依頼する等、幅広く周知する

章節	取り組み名 ※具体的な内容	担当課	学びの機会	主に理解を深めていただきたいこと	参加対象者	参加者の集め方(3つ)	参加していただく為又は理解していただく為の工夫(3つ)	実績 ※資料が無い場合はおおよそで結構です		参加者満足度 ※担当者所感	次回に向けての改善点 ※担当者意見
								回数			
8-2	桜町・花畑周辺地区まちづくり推進経費 ※本地区の取り組み及び芸術文化を通じたまちづくりを紹介するためのシンポジウム	都心活性推進課	シンポジウム	都市における新たな空間である「まちなか広場」についての理解を深めていただくために実施した	全市民	・市政日より、HP等での広報 ・2000人市民委員会委員への案内チラシの送付 ・検討委員会委員への案内及び社内周知の依頼	・新たなまちづくりが創造できるネーミングにした ・土曜日に開催を行った ・広場だけでなく地区のまちづくり全体の取り組みも紹介した	回数	1回	満足	若い世代にも参加してもらえるよう開催日程を考慮する必要がある
場所	市役所14階大ホール										
参加者総数	192人										
男女比	男50% 女35% 無回答15%										
年齢構成	10代 2% 20代 8% 30代 9% 40代 10% 50代 20% 60代 41% 無回答 10%										
8-3	公共交通基本条例推進経費 ※熊本市公共交通基本条例周知のためのオープンハウス	交通政策総室	オープンハウス	市民の公共交通の担い手であるという意識の醸成し、公共交通の積極的な利用を促す。	全市民	・市政日より、HPでの広報 ・当日呼び込み	・公共交通利用促進キャンペーンと同日に開催 ・公共交通施策のパネル展示 ・アンケート、クイズ実施（アンケート回答者、クイズ正解者への記念品配布）	回数	1回	満足	「参加していただく為又は理解していただく為の工夫」に記載する事項を継続し、今後も参加者に満足していただけるようにする
場所	交通センターセンターコート										
参加者総数	252人										
男女比	男性4割 女性6割										
年齢構成	20歳未満 20人 20～39歳 69人 40～64歳 96人 65歳以上 65人										
8-6	住宅情報提供事業 ※安全で安心な住宅やエコな住まい方等の住まいに関する意識の向上を図るためのオープンハウス(住まいづくりフェア)	建築計画課	オープンハウス	住宅、住環境、住まい方等の住意識の向上	全市民	・市政日より、熊本市ホームページ、ラジオ等による広報 ・チラシの設置・配布 ・通行者への周知・案内(呼び込み)	・親子で参加・体験できるコーナーを設け、お子さんが体験している間に展示パネル等を見ていただいた ・民間団体にも参加してもらい、住まいに関する様々な情報のパネルを展示した ・景品を用意して、アンケートへの協力を促した	回数	1回	概ね満足	参加者の多くが通りがかりであり、問題意識を持って足を運ばれる方が少ないと考えられるため、更なる周知が必要
場所	びぶれす広場										
参加者総数	約430人										
男女比	ほぼ同率										
年齢構成	20代以下 8% 30代 24% / 40代 25% / 50代 9% 60代以上 34%										